

建築コンクール審査結果

テーマ：「小さな建築」

- * 審査委員；中村好文氏、古谷誠章氏、伊礼智氏
- * 応募作品総数；148作品
- * 審査； 2010年4月24日（土）
審査会場； 今池ガスビルホールにて
- * 後援；愛知県、名古屋市、（社）愛知建築士事務所協会、
（社）日本建築家協会東海支部愛知地域会、
（株）中部経済新聞社
- * 協賛；旭化成建材（株）、東邦ガス（株）、OMソーラー（株）、
（株）タニタハウジングウェア、ネットイーグル（株）、
（株）ひらい、三菱商事建材（株）、銘建工業（株）
- * 主催；（社）愛知建築士会名古屋北支部（20周年
記念事業；2009年度）

総評；テーマである「小さな建築」を作品の中でどのように解釈しているかを注視した。応募作品には小ささをポジティブに捉え、小ささに意味や意義を求め、新たな価値観や面白さの提案が多くなされていた。多種多彩な用途の作品があったが住宅作品が最も多かった。住宅建築はその多くが他の建築に比べ小さいために、単に作品の紹介として提出されたものが多く、建物のどのような部分が「小さな建築」なのか提案が欲しかった。

また、小さい住宅が壁や屋根を斜めにしたり造形的になりすぎているのが気になった。小ささの弱点を転換して強み、面白みを引き出し、小さなモノはよりシンプルにすることで説得力を持つ。

受賞作品には、「未来の建築が持つイマジネーション」が表現されたものや、「小さな建築」によるまちや社会との関係性に新たな視点を与えた作品、小さな空間のなかに大きな発展性を期待できる作品等が受賞した（審査委員コメントより）

受賞者一覧表

受賞名	応募者氏名	所属	作品名
最優秀賞	南川祐輝	南川祐輝建築事務所	おひるねハウス
優秀賞	新関謙一郎	一級建築士事務所NIIZEKI STUDIO	OYM
優秀賞	寺村雄機	竹中工務店（当時 京都大学 大学院）	小郷のバス停
優秀賞	岩城和哉	東京電機大学理工学部 岩城研究室	FRP FABRIC COPSE
中村好文賞	家原英生	有限会社Y設計室	ペットと暮らす家（K邸減築工事）
古谷誠章賞	鈴木賢一	だがねランド2009実行委員会（名古屋市立大学・名古屋都市センター）	世界一小さな劇場「だがね劇場」
伊礼智賞	蟻塚 学	蟻塚学建築設計事務所	the wall
入賞	増田信吾	増田信吾＋大坪克亘	ウチミチニワマチ～幽霊のような建築～
入賞	岡田公彦	岡田公彦建築設計事務所	九十九里の家
入賞	久野浩志	久野浩志建築設計事務所	熊谷邸
入賞	山崎智志＋3名	YKTT（＋工藤浩平＋田中和沙＋武田慎平）	白銀の茶室
入賞	本村モニカ	ブラジル国パラナ州立ロンドリーナ大学建築学科	裏庭プロジェクト
入賞	荒木衛＋1名	六合建設株式会社（＋都築佳寿江）	NARROW 8坪に建つ集合住宅
入賞	白川在	合同会社白川在建築設計事務所 冨川浩史建築設計事務所	蒲原アルミゲートハウス
入賞	西山広志＋1名	nishiyamahiroshiokudairakeiko（＋奥平桂子）	in the curtain
入賞	新関謙一郎	一級建築士事務所NIIZEKI STUDIO	九品仏の離れ
入賞	安部秀司	安部秀司建築設計事務所	小さなタバコ屋さん
入賞	垣内光司	一級建築士事務所八百光設計部	8㎡
入書	神家昭雄	神家昭雄建築研究室	HUTTE DE NOEL ぶどう小屋の再生
入賞	渡瀬正記＋1名	一級建築士事務所 設計室（＋永吉歩）	球磨のバンガロー

最優秀賞

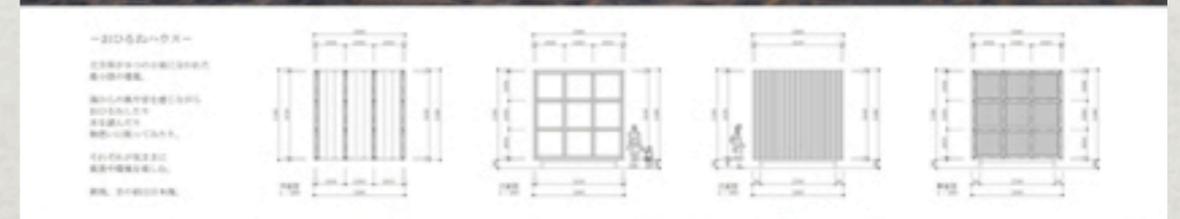
＊ おひるねハウス

＊ 南川祐輝

＊ 南川祐輝建築事務所

＊ 応募者；立方体が9つに分かれた最小限の建築。海から風や音を感じながら、おひるねしたり、本を読んだり、物思いに耽ってみたり。それぞれ気ままに風景や環境を楽しむ。新潟、目の前は日本海。

＊ 講評；情感に訴えるような写真がいい。建築のイメージネーションが持つ力を強く表現されている。
(中村氏)



優秀賞

✳️ OYM

✳️ 新関謙一郎

✳️ 一級建築士事務所 NIIZEKI STUDIO

✳️ 応募者；・・・ブロックという小さな部材を8000個積み上げて・・・内側から一個ずつ積んでいくため外部に余地がいらす、「小さな敷地」最大限に活かす・・・「小さな部材」による「小さな建築」をつくる過程で大きな可能性を秘めている構法。

✳️ 講評；小さな単位で大っきいものがつくれるという考え方や、ぎりぎりまで建てられることが面白い。建築的にもきれい。（中村氏）



小さな敷地
「小さな敷地」に最適な方法として選ばれたのは「小さな部材」による建築。ブロックという小さな部材を8000個積み上げて、建築をつくる。実行可能の敷地によって建築の施工が可能となる。この敷地（狭小コンクリート敷地）ではブロックがコンクリートの型枠である。その型枠を構造体とする。また内側面の仕上げの厚さを兼ね、建築のあらゆる要素を扱う。内側から1個ずつ積み上げていくために敷地に余裕が要らず、「小さな敷地」を最大限に活かした建築が可能となった。

小さな部材
「小さな建築」に最適な方法として選ばれたのは「小さな部材」による建築。ブロックという小さな部材を8000個積み上げて、建築をつくる。実行可能の敷地によって建築の施工が可能となる。この敷地（狭小コンクリート敷地）ではブロックがコンクリートの型枠である。その型枠を構造体とする。また内側面の仕上げの厚さを兼ね、建築のあらゆる要素を扱う。内側から1個ずつ積み上げていくために敷地に余裕が要らず、「小さな敷地」を最大限に活かした建築が可能となった。

小さな建築
この「小さな建築」は、「大きな建築」への対抗策である。小さな建築に内装の空間の厚さは必ず大きな建築へも活用が利く。特に小さな部材の集積によってつくられるこの構法は、堅牢な仕上がりを実現している。また、施工の難易度が非常に低いという特徴がある。大きな建築でも中庭の採光や通風を確保する「小さな部材」による「小さな建築」をつくる過程で大きな可能性を秘めている構法であることがわかった。

所在地：東京都中央区
建築士事務所：新関謙一郎
設計：新関謙一郎
施工：新関謙一郎
完成年月：2019年

優秀賞

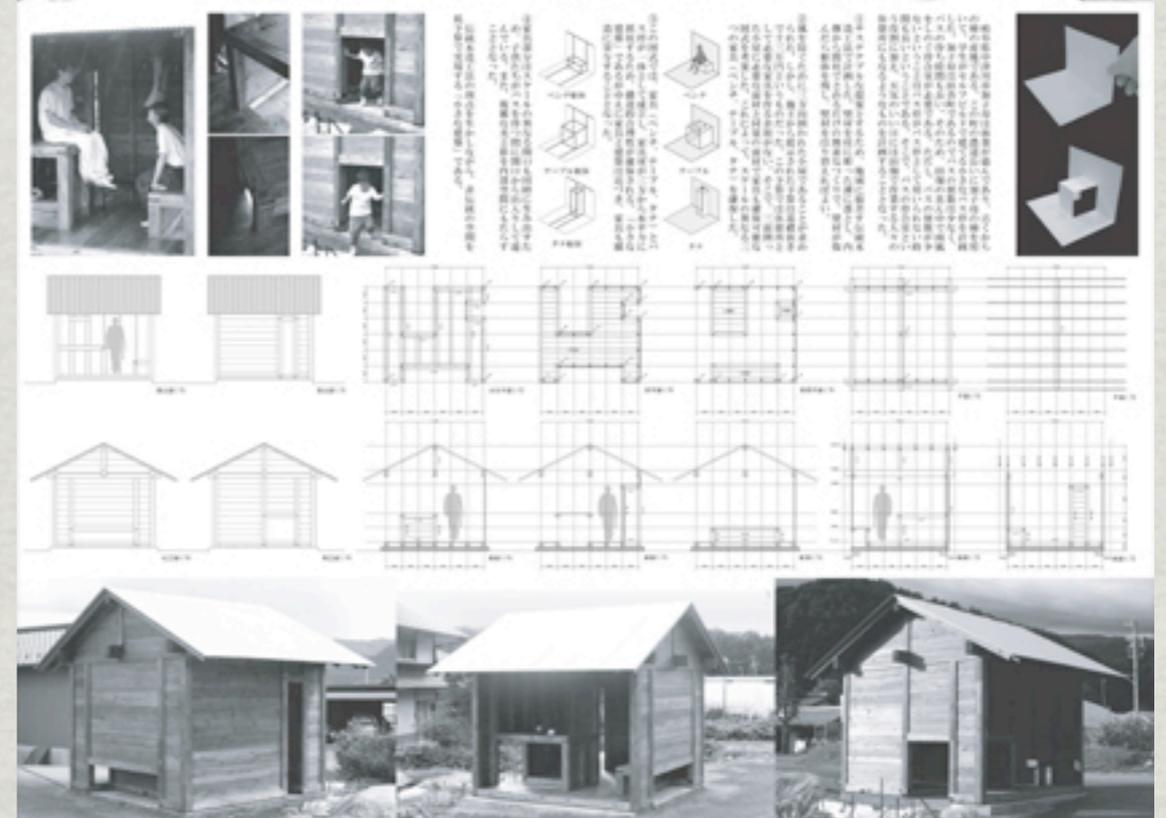
＊ 小郷のバス停

＊ 寺村雄機

＊ 竹中工務店 (当時 京都大学大学院)

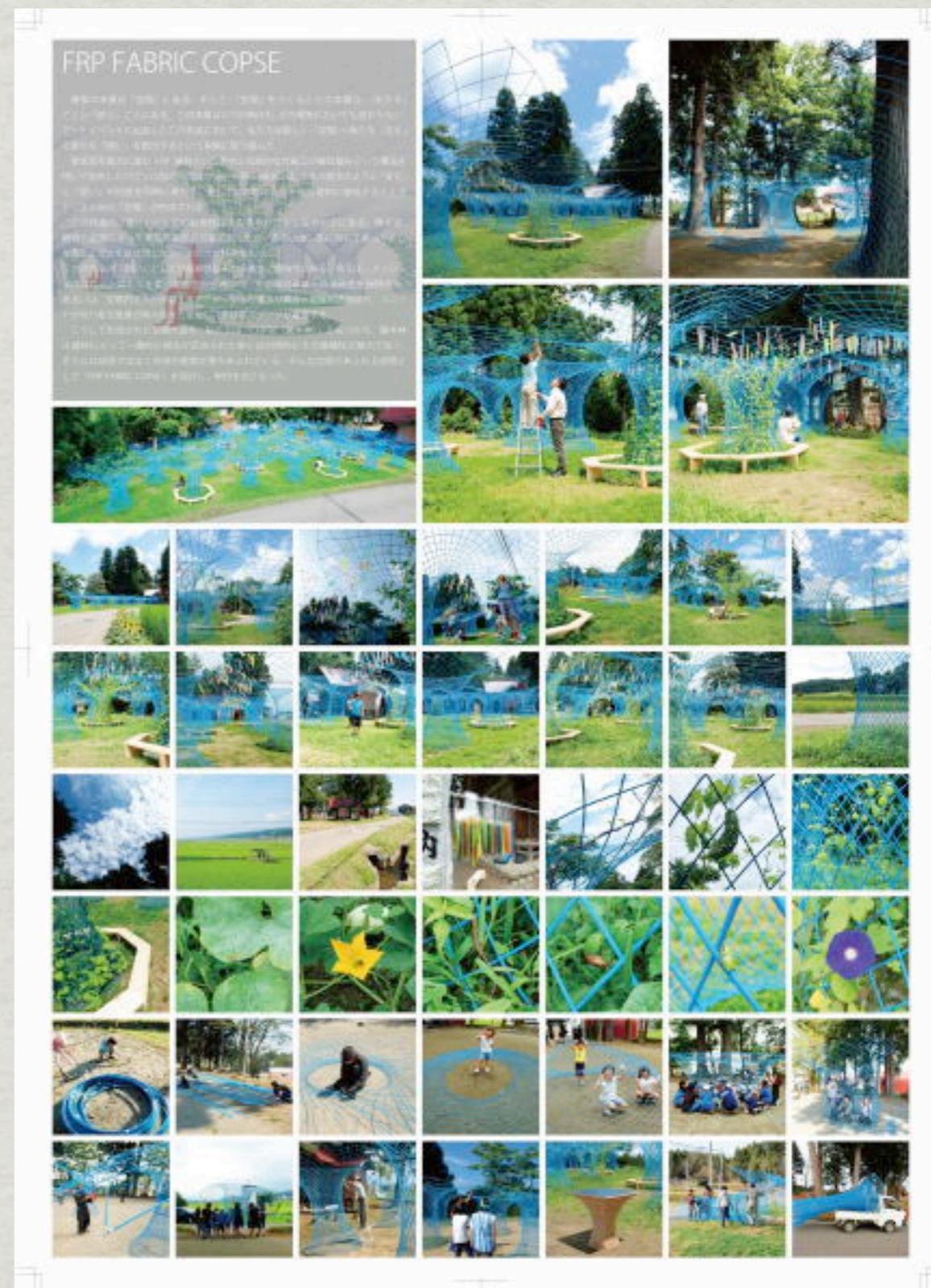
＊ 応募者：・・・学生がセルフビルドで建てた・・・折り紙細工のような図式を考案し・・・家具が構造として水平力に抵抗し、合理性が得られた。・・・「小さな建築」であるが故に、建築と家具は近づき、一体となって新しい表情を見せている。

＊ 講評；構造体としての合理性とそこから得られる明かりの取り入れがよい。バスを待つ間のコミティーの場として優れている。写真の取り方も良い。



優秀賞

- * FRP FABRIC COPSE
- * 岩城和哉
- * 東京電機大学 理工学部 岩城研究室
- * 応募者；建築の本質は「空間」にある。そして「空間」をつくることの本質は「支える」とことと「囲う」こと・・・FRP線材という素材と伝統的な竹細工の輪弧編みという構法・・・この作品の「囲い」としての新規性はその多義性／曖昧性にある。
- * 講評；植物を巻き付けたり、沢山の形ができ、空間作りとしての豊かさが展開されている。



古谷誠章 賞

※ **世界一小さな劇場「だがね劇場」**

※ **鈴木賢一**

※ **だがねランド2009実行委員会**
(名古屋市立大学・名古屋都市センター)

※ 応募者；子供が実物大のまちを創作し、仕事を通じて社会体験し、まちの解体までも子供達が行う・・・一日目はグループごとに造りたい劇場の模型を提案・発表・・・二日目はいよいよ実物の建設（専門家と大学生の力を借りる）・・・一日にして「世界一小さい劇場」を完成させた。

※ 講評；小さいときから建築的なものに関わることは大切なことです。子供達とのセルフビルドものとしても、ワークショップものとしてもよくできている。（古谷氏）



だがね劇場は、子どもたちと学生が共同で設計・施工を行なった、こどものまちだがねランドの中の小さな劇場です。

だがね劇場設計・施工ワークショップ

子どもたちの建築学習の一環として、劇場の設計・施工を二日間のワークショップを通じて実施しました。子どもたちは、建築家のS氏から建築家の仕事や劇場のつくりについてレクチャーを受けた後、模型を作りながら設計に取り組みました。学生は子どもたちの発想を最大限に生かしながら、実現するためのサポート役となり、実施案の詳細設計、材料調達、構造体の施工等を行ないました。完成後は、こどものまちだがねランドで子どもたちの管理のもと活用されました。

8月11日(火)

11:00 レクチャー・昼食
12:30 設計開始
15:20 プレゼン・審査
16:00 解散
16:00-20:00 施工準備(図面制作・材料調達・部材切り出し等)



コンペによる実施案の決定

子どもたちが5人一組の計4グループに分かれて設計した案の中から、模型とプレゼンをもとに建築家のS氏が実施案を選定しました。



8月12日(水)

9:00 施工準備のつづき
11:00 全体説明
11:10 施工開始
12:00 昼食
13:00 施工再開
15:30 施工終了・披露し
15:50 二日間のまとめ
16:00 解散



化粧材づくり

子どもたちによる作業
子どもたちは、壁、屋根、床板、背景幕等の化粧材や椅子の制作を担当しました。壁、屋根はだがねモジュールに切出した段ボールをそれぞれ好きなように装飾しました。観劇にはだがねランドのキャラクターである「だがねズミ」の顔も金色の折り紙を使用して作り、両手で見応えのある観劇に仕上がりました。

完成後の使われ方

完成後の劇場の管理は子どもたちに任せられ、マジックショーやコンサート、記者会見など子どもたちが自由に考え、使用していました。

構造体の組み立て



構造体には角材(20×40,30×40)を使用。詳細設計では、モジュールを用いることで時間を短縮しました。



伊礼智 賞

＊ the wall

＊ 蟻塚学

＊ 蟻塚学建築設計事務所

＊ 応募者；もともと明るくてアクティブな家族にとって、この塀が様々な遊びやゆとりのきっかけとなった。・・・「塀」という枠組みを越えて得られる人の活動のイメージであると思う。

＊ 講評；単なる塀でなくそこに居場所をつくってしまう、いろんな可能性を秘めている。塀にある窓等も隣との関係性を表現している。（伊礼氏）



the wall 全貌、南側の外観写真、
テラス、ベンチ、塀の壁面、
塀による生活空間

入賞

＊ ウチミチニワマチ ～幽霊のような建築～

＊ 増田信吾

＊ 増田信吾＋大坪克亘

＊ 応募者；狭い身体スケールを持つこの場所に見え隠れする「幽霊のような建築」をつくることにより、決められた場所をつくらず、庭が家、家は町、庭は道、と常に意識の中で更新されていく、そのような都市の中で新しい境界を計画した。

＊ 講評；狭小の敷地た狭い道路の環境で、塀をつくることで閉鎖的になるが、このような透ける塀は街路の狭さを感じさせないし、狭い庭も広がりを持つのに貢献している。



入賞

＊ 九十九里の家

＊ 岡田公彦

＊ 岡田公彦建築設計事務所

＊ 応募者；敷地境界の塀から中心の個室の間仕切りまで、連続する壁が徐々に高さを変えていきながら、らせんを描いていき、畑や駐車場、作業場や居室、寝室を連続的に仕切っていく。

＊ 講評；スケール感をわざとかく乱させるような、大きいのか小さいのか分からなくする不思議な空間がよい。（古谷氏）



九十九里の家

自宅や納が出来る心から平場の、のびのびとした生活空間をもちながら過ごすための住宅。敷地でコンパクトな家を望まれたため、最小限の構造で最大限の効果をあげることを考えた。敷地境界の塀から中心の個室の間仕切りまで、連続する壁が徐々に高さを覚えていきながら、らせんを描いている。畑や駐車場、作業場やリビング、ダイニング、キッチン、居室を連続的に仕切っていく。その各スペースを移動する動線の流れる体験、経路にも開かれた壁が天井までプライバシーの役割を果たしている。壁は床の質感の小さな住宅でありながら、どこまでもつづくような広がりを感じ、滞在にも開かれたことによる安心感とゆるやかな環境の変化を感じられるような空間をめざしている。

敷地：千葉県九十九里町 / 用途：専任住宅 / 構造：木造 / 階数：1階建 / 敷地面積：201.90㎡ / 建築面積：65.90㎡ / 延床面積：64.74㎡



入賞

※ 熊谷邸

※ 久野浩志

※ 久野浩志建築設計事務所

※ 応募者；敷地は50坪の程度の規則的な区画に二階建てが立ち並ぶごくありふれた住宅地。そこに周りの家と少し違ったスケールを持つ家をつくる。平均的な住宅地の中の新しいスケールが新しい環境を作り、新しい生活体験を生み出していく。

※ 講評；低い埋め込められた平屋部分と高い搭状の部分との対比が建築的に優れている。平屋部分を埋め込むことで近隣の建物との相対的な小ささを表現している。



入賞

＊ 白銀の茶室

＊ 山崎智志＋工藤浩平＋
田中和沙＋武田慎平

＊ YKTT

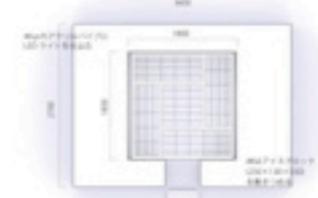
＊ 応募者；町のみんが集まるような場所としての茶室を考えた。茶室という限られた空間を、降り積もる雪という限られた一つの素材でつくるということ。規則正しく敷き詰められたアイスブロックは畳のようでもあり、雪ならではの二畳程の小さな世界をつくりだす。

＊ 講評；建築は元来身の回りの材料を使ってつくる。これは雪を固めてブロックをつくり組石造とした。



白銀の茶室

北海道で毎年開催されているアートイベント、「ライオンサーカス」のために制作された作品である。敷地である北海道の東洋村は、「緑のポケット」と呼ばれるほど豊かな自然環境を有している。その地が雪によって色を変える時に、町の集まるような場所としての茶室を考えた。茶室という限られた空間を、降り積もる雪という限られた一つの素材でつくるということ。規則正しく敷き詰められたアイスブロックは畳のようでもあり、雪ならではの二畳程の小さな世界をつくりだす。この茶室のために制作されたLED照明ユニットが光ることによって雪の場所が浮かび上がり、やがて雪をつたいながら茶室全体を包み込む。入り口からこぼれた暖かな光が人々を導く。ひんやりと暖かい茶室。



入賞

＊ 裏庭プロジェクト

＊ 本村モニカ

＊ ブラジル国パラナ州立ロンドリーナ大学建築学科

＊ 応募者；二畳台目茶室を、近隣住民参加により建設し、そのプロセスを通して、良き近隣形成を希求したプロジェクトである。・・・素人でも建設可能な手法を考案した。材料はすべて地場産とリサイクル材品を用いた。

＊ 講評；裏庭は各住宅で小さく分割されているが、つなぎ合わせることで大きなことができる。面白いプロジェクト。

裏庭プロジェクト
—よき近隣形成のための小さな茶室—
(A Report from San Francisco)

「良き近隣形成」は安全で住みやすい住環境の礎となるもので、米国では不動産評価の重要な要素の一つである。住民参加の街づくりとして世界をリードするサンフランシスコにおいても、個人レベルで近隣住民を巻き込んだ「裏庭プロジェクト」は注目される実例である。これは個人住宅の裏庭に、素人でも法的に建設可能な100平方フィート(約9.3㎡)以内の二畳台目茶室を、近隣住民参加により建設し、そのプロセスを通して、良き近隣形成を希求したプロジェクトである。施工は基礎、畳、左官工事を除く全ての工事を近隣住民が行った。施工参加者36名のうち、建築専門家は3名、残りは自営業、年金受給者、会社員、主婦など計19職種の人達である。工法は本番組組工法とパネル工法をミックスしたもので、素人でも建設可能な手法を考案した。材料は全て地場産とリサイクル品を用い、床柱は立ち枯れた樹幹をゴミ置き場から拾ってきて再利用した。床の間にあっては、以前から存在した大木の切り株をそのまま残し、ゲニウス・ロキの思想を取り入れて土地の記憶を継承した。2006年4月に着手し、2007年9月に完成した。2007年9月27日、28日両日に行われたオープニング・パーティーには300人もの人達が参加した。会場設営にあたり、隣接3軒が床の一部を取り扱うなどして協力したことは、何より「良き近隣形成」が成された証である。

図1 裏庭プロジェクトの位置 (サンフランシスコ)
図2 裏庭プロジェクトの平面図
図3 裏庭プロジェクトの断面図
図4 裏庭プロジェクトの施工計画図

施工参加者一覧 (36名)
職種 人数
自営業 10
年金受給者 5
会社員 8
主婦 7
学生 2
その他 4
建築士 1
大工 1
小工 1
デザイナー 1
職人 1
その他 1
合計 36

A B C D E F G H I J K L M N

入賞

- * **NARROW**

- 8坪に建つ集合住宅**

- * **荒木衛 + 都築佳寿江**

- * **六合建設株式会社**

- * 応募者；狭小空地は周囲の開発により隙間的暗空間となりやすく、こうして活用することでよりよい景観形成にも寄与する。・・・小さな投資で行う小回りの利く小さな経済活動が大きな可能性を秘めているのではないだろうか？

- * 講評；賃貸物件は多いがこのものが一番コンパクトで良い。

NARROW FLAT
8坪に建つ集合住宅

広さ8坪・間口3m必要に敷地内に出た隣接建物により制約を受ける土地それが今回の敷地である。まさに雷の銅鑼ほどのその土地は駐車場にしても1台しか止まらず戸建住宅も満足に建たない。その小さな敷地を有効に活用するべく、建築面積15㎡、延床面積30㎡にも満たない小さな集合住宅を計画した。鉄骨造2階建15㎡のクロームが各層1戸それぞれ3.5帖のロフトがついている。その鉄さゆえ無駄なものは何もない。2階住戸専用の外部階段を設けた長屋形式で共用部分がなく入居者としては小さな戸建感覚を味わえる。狭小空地は周辺の開発により隙間的暗空間となりやすくこうして活用することで、よりよい景観形成にも寄与する。また、規模が小さければ限られた予算で買え、多くの人がかつとる可能性が広がる。集合住宅の経営という概念からすれば、小さくて活用できなかった資産・資産家たちが生きてくるのである。多くの人たちが取られた資産しか持たないでいる不況社会のニーズに刺さる。このような小さな投資で行なう小回りの利く小さな経済活動が大きな可能性を秘めているのではないだろうか。

入賞

＊ 蒲原アルミゲートハウス

＊ 白川在

＊ (合) 白川在建築設計事務所
富川浩史建築設計事務所

＊ 応募者；「離れ」を追加していく分棟形式を採用した。・・・小さな棟の集積とし、構造的に無理のないスパンで計画することで、アルミ構造の弱さを補うことができる。ここでは、3mmの板厚で成立可能なスパンとした。

＊ 講評；アルミ建築の可能性を小さな建物で実験的にやっているが、ディテールからきちっとできている。形もきちっとデザインされている。小さいものをつかって足していく、そして大きく展開する手法が良い。(古谷氏)



入賞

✧ in the curtain

✧ 西山広志 + 奥平桂子

✧ nishiyamahiroshiokudairakeiko

✧ 応募者；RICアートカプセル2009に出品した、カーテンだけでできた小さな建築です。部屋の中で窓に寄り添うカーテンが、カーテンレールから開放されて自由に空を舞い、自立し、カーテンだけで包まれた場所をつくす。

✧ 講評；どんなところでも場をつくってしまう。すごく単純だが不思議な感じがする魅力がある。
(伊礼氏)



入賞

＊ 九品仏の離れ

＊ 新関謙一郎

＊ 一級建築士事務所 NIIZEKI STUDIO

＊ 応募者；小さな建築が街並をつくる。建築はどんなに小さくても、街や社会と関わらなくてはいけない。・・・「小さな建築」は、外装を6ミリ厚の鋼板、内装を0.2ミリの和紙という極端に薄い材料で建築をつくることを試みた。

＊ 講評；小さい建物の作り方として、工場で作ってポンと置くだけという作り方がいい。小ささが際立つ作品だ。小さな建物だけど周りの建物に比べても存在感が有る。（古谷氏）



入賞

＊ 小さなタバコ屋さん

＊ 安部秀司

＊ 安部秀司建築設計事務所

＊ 応募者；敷地形状を利用して螺旋状の階段を配し、可能な限り床面積を確保する。階段と部屋が一体となって広がりをもたらし、将来、開発が進むにつれて変化しても、凛として佇む「小さなタバコ屋さん」は出来上がる。

＊ 講評；小さな敷地に必要なものを単純に構成しているのが良い。（古谷氏）



入賞

✳️ 8 m²

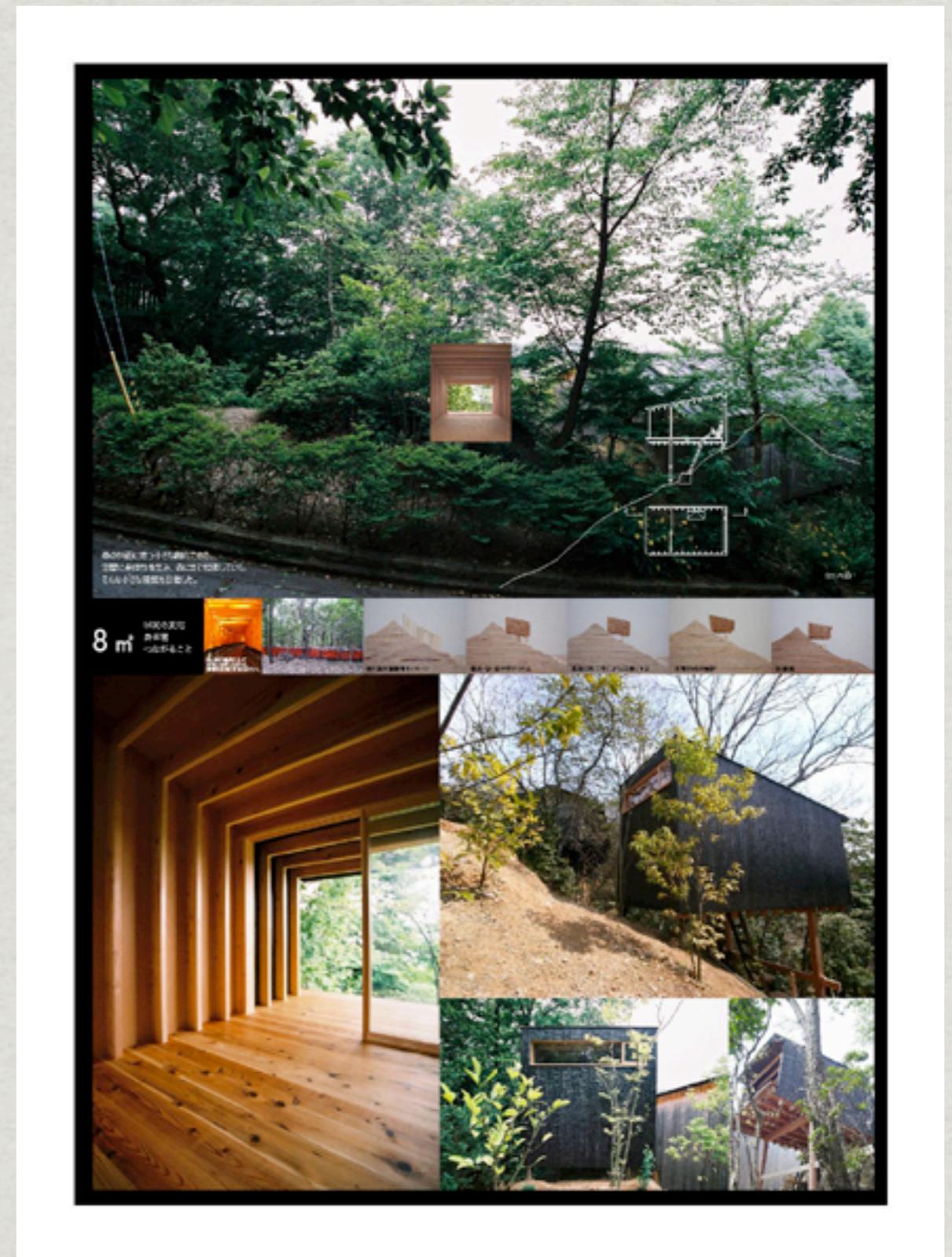
✳️ 垣内光司

✳️ 一級建築士事務所

八百光設計部

✳️ 応募者； 自然と対峙しながらも見事な空間と身体性を持つ、千本鳥居のような構造帯をファーストイメージとし・・・8 m²という小ささは、空間に身体性を生み、柱と梁の連続帯は、森へとつながっていきます。森・空間・人というプリミティブな状況がそこにはあります。

✳️ 講評； 森の中にある小屋の中では、デザイン的にもすっきりしていてよい、地形を変えていないのが良い。



入賞

＊ HUTTE DE NOEL
ぶどう小屋の再生

＊ 神家昭雄

＊ 神家昭雄建築研究室

＊ 応募者；古いマスカット栽培の温室を再生したものの。長さ18mほどあった温室を5.5mに減築し、ここでお茶を楽しんだり、ギャラリーやアトリエとして使ったりと、多目的に利用できる暮らしを豊かにする場所とした。

＊ 講評；夏はマスカットですすしそうだし、冬はガラスで温かそうで、小さな温室だが快適そうです。農業を楽しむような建築。



入賞

＊ 球磨のバンガロー

＊ 渡瀬正記＋永吉歩

＊ 一級建築士事務所 設計室

＊ 応募者；間隔をあけた短材の列を重ねていくと、たくさんの孔があいた透かし細工のような面が出来上がる。こうしてできる木のレースを構造体として壁面と屋根面をくくり空間を包みとる・・・外皮は現場施工による半透明のFRPである。

＊ 講評；木材の集合体でこのような空間ができることは、小さな建築の可能性を広げた。また、FRP素材で覆ってしまう点や、光の取り入れ方が巧みである。

